

柏崎刈羽原子力発電所に関する調査特別委員会
柏崎刈羽原子力発電所 6 号機視察 報告書

日 時	令和 7（2025）年 5 月 23 日（金）午後 1 時 50 分～4 時 10 分
場 所 （会場）	東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所 （ビジターズハウス、6 号機原子炉建屋等）
概 要	別紙視察スケジュールのとおり、ビジターズハウスにおいて概要説明（別紙資料参照）を受けた後に発電所構内へ移動して 6 号機原子炉建屋等を視察した。  
参 加 者	【委員】 真貝維義（委員長）、持田繁義（副委員長）、布施学、山崎智仁、星野幸彦、佐藤正典、池野里美、三嶋崇史、近藤由香里、田邊優香、山本博文、西川弘美、五位野和夫、三宮直人、相澤宗一、阿部基、春川敏浩 【随員職員】 駒谷隆太郎（議会事務局主査）
対 応 者	東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所 稲垣武之所長、大東正樹副所長、杉山智貴副所長、山田大輔広報部柏崎地域グループマネージャーほか
所 感 等	【真貝委員長】 柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の視察は、燃料装荷に向けての使用前事業者検査の進捗状況及び安全対策が目的である。視察の前に、安全対策のポイントについて次の説明を受けた。柏崎刈羽原子力発電所では、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえて様々な安全対策に取り組んでいる。電源喪失に備えて電源確保の手段を多重化・多様化、原子炉冷却設備の機能喪失による重大事故（シビアアクシデント）を防ぐため冷却機能の復旧や代替する設備の注水・冷却手段の多様化が実施されている。電気を必要としない高圧代替注水ポンプ設置。代替循環冷却設備は、少なくとも約 10 日間は大気への放射性物質の放出を遅らせることができる。万が一放射性物質を放出する事態になった場合は、大容量放水車による放射性物質の拡散防止策を実施し、敷地外への放射性物質の拡散を最小限にとどめる。構内視察においては、原子

炉建屋において重大事故時に発生する水素を除去し水素爆発を防止する原子炉建屋水素処理設備や新規制基準による原子炉建屋内側ブローアウトパネルの配置などの説明を受けた。また、建て替えられた大物搬入建屋やフィルタベントの確認・説明を受け、最後に立入制限区域の見直しによる新たな防護柵の設置作業を行っている現場を視察した。福島第一原子力発電所事故を踏まえた新規制基準に対応した安全対策により、安全性に関しては、原子力規制委員会が言う福島事故のような過酷事故の起きる可能性は極めて低いと改めて感じた。原子力発電所の再稼働に論議では、安全・安心が重要と言われるが、安全は科学的・客観的に判断するものであり、安心は主観的なものである。安全審査に適合した原子力発電所が稼働できない、電気料金の高騰・電力不足の今、国が前面に立ち、国主導で再稼働に対する行動を起こすべきではないかと強く感じた視察であった。

【持田副委員長】

不正侵入対策に対応する三重的築造、緊急時対策棟の新築も計画されていることから、着々と再稼働へのレールが敷かれていることを強く印象付ける。防潮堤の築造は良としても、自然界には何が起きるか計り知れない。想像性をもって対処しなければならない。実際の津波に対応できるかどうか疑問を持つ。残余のリスク等の対応について、核物質防護の観点から「不開示」とされている施設等が一定数あることは承知するが、時として、開示への方向性が見えた段階では直ちに具体化を求めたい。原子力規制委員会による核物質防護に関する指摘は、適切に対応されていると信じたい。更なる安全性への向上には、「人が管理する」という観点が自覚的に、組織的に強化される必要がある。職場のあらゆる現場、環境において基本的人権の尊重、厳格化が貫かれていなければならない。

【布施委員】

6号機サイト内の視察を行うに当たり、以前にも増して構内に入る際のチェックが厳しくなっていると率直に感じた。構内の作業員の皆様の挨拶が徹底されており、働きやすい環境も出来上がっているということを感じることができた。所長・副所長からも、主要な安全工事の進捗状況について、新規制基準を踏まえた安全対策工事を行っていることの説明を受け、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に向けた強い姿勢が伝わってきた。国のエネルギー安全保障に向け、新規制基準に対応した施設となっていることがよく伝わってきた視察であった。

【山崎委員】

安全対策設備におけるその機能、想定される効果、訓練により緊急時対応能力の向上に日々取り組んでいることの説明を受けた。今回の視察により、6号機においても新規制基準を満たす安全対策が実施されており、福島第一原子力発電所事故を踏まえた、より実効性のある安全対策を行っている状況を確認することができた。また、第三者委員会やIAEAからの評価からも、日々改善し続ける姿勢を知ることができた。今後も安全性最優先の発電所実

現のため、立地地域や受益地域からの信頼獲得に向けての取組を継続されることを望む。

【星野幸彦委員】

今回の視察の目的は、7号機に続き6号機において安全対策工事の完了を受けてのものであったと認識している。安全対策の説明の後、実際に6号機原子炉建屋内まで視察することができた。実際に原子炉建屋に入るのは久々であった。これまで資料での説明のみであったが、水素除去装置など実際に見ることができた。様々な安全対策が取られていることは分かるが、実際にいざというとき機能するのかというところが気になるところである。

【佐藤正典委員】

東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機の視察を行った。主な安全対策工事の進捗状況について説明を受けながら、実際にプラントの現場を確認した。既に原子力規制庁の使用前確認を受けており、承認後の6月10日には燃料装荷を実施予定とのことである。現在の取組状況としては、福島第一原子力発電所事故の教訓を生かした津波対策や緊急時の電源確保対策など、万一の事故に備えた、新規制基準に基づく安全対策工事が実施されているとのことである。当日配付された資料では、最初に原子力発電の必要性、柏崎刈羽原子力発電所の東日本における重要性という記載が出てくるが、言うまでもなく、最も重要なことは、その安全性を最優先することである。悲惨な事故を起こしてしまった当事者として、そのことを常に念頭に置いて、今後も安全対策に当たっていただきたい。

【池野委員】

今回は、6号機の建屋内等の視察をさせていただいた。福島第一原子力発電所の事故を受け、水素爆発をしないために新しく設置された水素濃度を下げる装置や、いざというときに建屋の爆発を防ぐために外れる仕組みになっている扉などの説明を主に伺った。以前と比べて安全性が向上していることは感じたし、日々尽力されていることは理解するが、安全対策はこれで十分ということはないと考える。常に最悪の事態を想定し、より安全性が向上するよう努めてもらいたい。また、視察を通して、入構する際は入口での車や身分証明書の確認等の検査に始まり、建屋内に入る際にも身分証や荷物、指紋などの警備員や機械によるチェックがあり、その度に列が生じてすぐに現場にたどり着けず、働いている方々は大変だなと感じた。安全対策のためには必要なこととは思いますが、仕事に取り掛かるまでに相当の時間が掛かることが分かった。また、構内において、現場で働いている多くの作業員の方々とすれ違ったが、毎日構内で多数の協力企業の方々が働いていらっしゃることを考えると、安全対策等に関する重要事項等を共通理解して全ての方と意思疎通を図ることは、とても大変なのではないかと感じた。これからも、柏崎が安心して暮らせるまちとなるよう原子力発電所の動向に注視していきたい。

【三嶋委員】

原子力規制庁の審査を行っている柏崎刈羽原子力発電所6号機を視察した。

福島第一原子力発電所事故時と比べて火山灰フィルターなど全く新しい規制基準の整備を行い、工事が完了していた。日本のエネルギー事情を考えると一日でも早く再稼働しなければならないが、安心安全を第一に工事作業を進め、対策を講じていた。説明を受け、原子力発電所の再稼働に対する地域住民の期待と信頼に応えるためにも安全対策を重視し、十分理解して安心してもらう努力を感じ取った。柏崎市がこの50年間支え合い共存してきた原子力発電所の重要性を再認識し、原子力技術の進歩を地域の方々に話すことが私の務めだと強く感じた。

【近藤委員】

柏崎刈羽原子力発電所6号機は、7号機における様々な経験・反省点を教訓として安全対策を進めている。同発電所は、目指す姿として「1. 核物質防護事案の各改善措置項目の効果が十分発揮できていること」、「2. 安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること」、「3. 緊急時等の対応能力が十分であること」、「4. 発電所で働く全ての人々が円滑なコミュニケーションを図っていること」の「4つの柱」を掲げている。今回の視察においては、特に1と2の柱について重点的かつ細部にわたって見せていただき、6月10日に予定される燃料装荷を前に行われた原子炉系主要設備の健全性確認についてなど、詳細を知る機会となった。また、3と4の柱についても着実に実施されていることを確認できた。視察全般を通して、特定重大事故等対処設備（特重設）の工事完了時期変更に伴い、6号機を先行して再稼働させることも視野に入れるべきだと感じた。

【田邊委員】

6号機の視察をさせていただいた。東日本大震災以降進められている安全対策工事の進捗状況を確認させていただいた。今後どのような過酷事故が起きても対応できるよう、あらゆることを想定して安全対策工事を適切に進めていることが分かり、東京電力ホールディングス株式会社の安全対策工事に対する姿勢をしっかりと確認することができた。6月10日に予定されている燃料装荷に関してもしっかりと進めていただき、まずは安全が第一ではあるが、再稼働を早期に実現していただくことを願う。

【山本委員】

今回、柏崎刈羽原子力発電所に関する調査特別委員会として、柏崎刈羽原子力発電所6号機の主要な安全対策工事の状況を確認させていただいた。現在、原子力規制庁の使用前確認を受けており、試験使用の承認後に燃料装荷を実施予定との説明を受けた。福島第一原子力発電所事故を踏まえた津波対策、電源対策、注水、除熱対策、万が一の事故に備えた影響緩和対策など、6号機の新規制基準に基づく安全対策工事が100%実施されていた。また、既存設備に加え、これらの安全対策工事により、設備の多重化・多様化が図られていた。そして、全ての使用前事業者検査を実施し、原子力規制庁の使用前確認をもって完了となることをお聞きし、安全が担保された号機から再稼働を願うものである。

【西川委員】

柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の主要な安全対策工事の進捗状況について資料に基づき説明いただいた後、6 号機原子炉建屋内部や構内の見学・説明を受けた。新規制基準を踏まえた安全対策工事の施工、燃料装荷前までに行う使用前事業者検査が一通り実施されたとのことである。令和 5 年 10 月に新人議員研修として今回とほぼ同じルートで 6 号機建屋や構内を視察したが、その時と比べ、燃料取替機の耐震強化工事、フィルタベント設備（地上式）の工事、大物搬入建屋を耐震性の高い建物へ建て替えるなど、安全性の強化が進んでいた。現在、原子力規制庁の使用前確認を受け、試験使用の承認後、6 月 10 日に燃料装荷を実施予定とのことである。東京電力ホールディングス株式会社には安全対策への努力を引き続き行っていただくことを要望するとともに、原子力発電が国民の福祉に資するためにも、早期の再稼働を望む。

【五位野委員】

今回は 6 号機の主要な安全対策工事の進捗状況についての視察であり、新規制基準への対策工事や燃料装荷前の事前検査は実施済みとのことであった。様々な指摘に応じてハード面の対応や緊急時の訓練、発電所内のコミュニケーションを図ることはされている。しかし、問われているのは、東京電力ホールディングス株式会社の企業体質の改善であり、東京電力ホールディングス株式会社には原子力発電所の運転を任せられないという、様々な方面からの指摘に応じて企業体質の改善がされたかという点が、今回の視察では見えなかった。

【三宮委員】

構内の入場手続、発電所幹部からの説明、6 号機の安全対策と視察させていただいた。以前の視察では通路に機材や材料が置かれていたが、今回はなく、着実に安全対策工事が進んでいる印象であった。また、何よりも視察中にすれ違った構内従事者の表情が豊かになったように感じ、コミュニケーション活動の成果と思いたいし、柏崎刈羽原子力発電所で働くことが誇りだとなるよう意欲を育ててもらいたい。

【相澤委員】

7 号機の特重施設完成時期が 4 年後になるとの発表があってから、6 号機に注目が集まっている。6 号機自体の安全対策工事は完了し、あとは燃料装荷も含めた原子炉系主要設備の健全性の確認と、起動に必要な設備及び万一の事故に対処する設備の機能の確認作業が残っている。本特別委員会の役割として、原子力施設の安全性確保が行われていることを市民へ伝える責任があることから、6 号機においても自らの目と耳と体で確認するため、現場視察を実施した。以前 7 号機に関して本特別委員会にて視察を行っていたが、原子力設備の安全対策の多重化・多様化を始め、福島第一原子力発電所の原子炉建屋水素爆発を教訓とした設備の完備を改めて確認した。新年度開始直後に変圧器の火災・発煙があり、単なる経年劣化ではなく、発生メカニズムは複雑なものであった。自然現象が絡む事象は究明が難しいが、しっかりとした

調査により突き止めたものと理解している。福島第一原子力発電所のような事故を起こさないための新規制基準に適応した設備整備はもちろんのこと、課題に正面から向き合い、一つずつ解決をして信頼の獲得につなげていただきたい。

【阿部委員】

6号機の主要な安全対策の状況を確認させていただいた。説明によれば、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故発生時よりも厳しい状況を想定した訓練や、飛行機等の墜落による大規模火災に対する訓練も実施しているとのことであった。また、安全対策設備においては、万が一に備え、原子炉建屋に滞留した水素と酸素を水蒸気に変えて水素濃度の上昇を抑制し、水素爆発を防止する静的触媒式水素再結合装置の設置など、新規制基準を踏まえた安全対策が行われていることを確認できた。安定した電力を安価で供給する必要がある、安全第一で早期の再稼働を願うものである。

【春川委員】

この度、6号機を視察し、東京電力ホールディングス株式会社の目指す姿勢を確認した。福島第一原子力発電所の過酷事故以来、あらゆる分野でより強度の安全対策を施していることは評価できる。原子力規制委員会、第三者委員会やIAEA等の外部の評価も得ていることを踏まえ、一定水準に到達したと説明を受けた。6月10日には燃料装荷が予定されているとのことであり、関係各位が一丸となって安全対策はもちろん、住民への信頼回復に一層尽力して再稼働を望む。